

事例6 九州産業大学（私立）

1. 大学概要

設立主体	国公立 私立
所在地（本部）	福岡県福岡市東区松香台 2-3-1
大学設置年、創立年	設置：1960年
学部・キャンパス	文系 ・ 理系 （学部数：8学部、1キャンパス） 国際文化学部、経済学部、商学部第1・2、経営学部、情報科学部、工学部、芸術学部
学生数（学部）	10,504人（2014年5月1日現在）

（2014年12月15日現在）

2. キャリア教育への取組状況

（1）キャリア教育についての取組方針、導入の背景等

①理念、取組み方針

- ・ 2011年度より、新しいキャリア教育をスタートさせた。「結果として就職が決まる学生生活」の構築をキャリア教育のテーマとしている。そのために、この20年で日本の社会構造や会社の体制がどう変化してきたか、それにより企業が求める能力がどう変わったか、それと大学での勉強がどう結びついていくのかをきちんと教えていくのが同大学のキャリア教育であり、そして、社会で生きていくための基本的なモノの見方、考え方、基礎知識を身につけてもらおうという切り口でキャリア教育を行っている。「こうした切り口でキャリア教育を行っているところは、本学の特徴」という。

②導入経緯

- ・ 2011年に大西純一氏がキャリア教育開発研究室の特任教授に就任し、新しいキャリア教育の構築に取り組んだ。同大学のキャリア教育の大きな特徴は、1年生のほぼ全員がキャリア教育を受け、3年生の後期にもキャリア教育の講義を行うことというが、これは、大西教授が赴任時に大学側に依頼して実現したものという。
- ・ 大西教授が赴任した当時、同大学の就職決定率（進学者を除く卒業者数に占める就職者の割合）は、リーマンショック前には74.4%（2008年3月卒）の高水準にあったものが、2011年3月卒59.5%、2012年3月卒62.2%まで落ち込んでいた。
- ・ そこで、全国50大学との関わりの中から大学教育の問題点を精査。1年生の前期と3年生後期にクラスを設置。“キャリア教育が導入されるようになった背景”“世界と日本の変化”“企業と人事政策の変容”“人材と人手”“人材の三層化”について徹底した解説を行うような「形式とコンテンツにおいて他大学にはない」キャリア教育を2011年度よりスタートさせた。さらに2014年度からは、授業を拡充し、2名の専任教員により16クラスを開講している。

- ・ キャリア教育導入後の就職決定率は、前年の 62.2%から 70.7% (2013 年 3 月卒) に上昇し、2012 卒をもとにした伸び率は九州諸大学の中で突出した伸びを記録した。
- ・ さらに 2014 年 3 月卒の就職決定率は、過去 20 年間で最高の 76.2%を記録。正社員としての就職率でみると周辺有力大学を上回った。本学の正社員就職率は 74.7%。「結果としての就職」が学生の意識を大きく変えたという。(いずれも卒業生を分母とした数字)

図表 就職決定率 (2007~14 年)

2007 年卒	69.4%	
2008 年卒	74.4%	リーマンショック前のピーク
2009 年卒	70.6%	
2010 年卒	61.9%	
2011 年卒	59.5%	
2012 年卒	62.2%	
2013 年卒	70.7%	キャリア教育導入初年度
2014 年卒	76.2%	過去 20 年で最高を記録

(参考) 正社員就職率 (2014 年 3 月卒)

大学名	2012 年 3 月卒	2014 年 3 月卒	伸び率	正社員就職率
九州産業大学	62.2%	76.2%	22.5%	74.7%
S 大学	69.6%	80.1%	15.0%	73.1%
F 大学	74.7%	77.1%	3.2%	73.4%
※全国平均 (文科省調べ)				65.9%

(出所) 九州産業大学提供資料

(2) 当該大学におけるキャリア教育の特徴 (全体像)

ー基礎教育センター、学部教育、キャリア支援センターの 3 者が連携

- ・ 同大学では、キャリア教育を、学生の授業や授業外の悩みの相談にのる基礎教育センター、学部教育、キャリア支援センターの 3 者の連携の下で行っている。

ー授業カリキュラム

- ・ 授業カリキュラムとしては、入学直後から将来を見据えたキャリア教育を実施しており、1 年次からの段階的なキャリアデザインの構築を目指している。1 年次前期に「キャリア形成基礎論」、2 年次前期に「キャリア開発論」、3 年次後期に「キャリア形成戦略」を設置。1 年次生のほぼ全員がキャリア教育を受け、3 年次生の後期にもキャリア教育の講義を行うことが、同大学のキャリア教育の大きな特徴となっている。「キャリア形成基礎論」及び「キャリア形成戦略」は、キャリア教育専門教員 2 名が統一シラバスで開講。「『就職』はゴールではなく、スタートに過ぎない。人生を力強く生き抜くために必要となる知識、能力、考え方の育成を図る (『キャリア形成基礎論』シラバスより抜粋)」との考えで授業を行っている。一方、「キャリア開発論」は、業界研究として、金融業、情報通信業、サービス業等 13 種類の業界関係者に講義を依頼している。

図表 キャリア教育支援・進路・就職支援の詳細

キャリア教育支援			
進路・就職を考える	授業科目「キャリア形成基礎論」 結果として就職も決まる学生生活とは?について探究 キャリアサポートセミナーⅠ 社会人基礎力、学生生活の過ごし方等について説明 キャリアサポートセミナー キャリア支援センターの利活用方法等について説明(ゼミ別を実施) キャリアサポートセミナー(講演会及び公務員研究) 企業の採用担当者による講演会および公務員を目指す学生への対策セミナー	授業科目「キャリア開発論」 各業界の第一線で活躍するの方々によるオムニバス講義 キャリアサポートセミナーⅡ 各業界の方々の業界・企業研究の必要性についての講演	
	就職模擬試験(SPI・一般常識)……有料 就職能力試験(SPI3対策) 企業の採用試験で頻出する問題の模擬試験(無料)		
	ジュニア・アドバイザーによる各種支援 早期に就職が内定した優しい先輩(4年次生)たちが相談に対応、模擬面接会等を開催		
	就職対策講座 マスコミ・メディア業界受験対策講座、民間企業就職対策(一般常識・SPI・論作文)コース及びコミュニケーション能力育成コースを開講		
	公務員受験対策講座 基礎的処理コース(1年次生対象)、教養基礎固めコース(2年次生対象)、地方上級行政職等対応コース、公安職等対応コース(以上、3年次生対象)を開講		
	九州産業大学インターンシップ/九州インターンシップ推進協議会主催インターンシップ(事前研修・事後研修を含む) 夏休み期間(8~9月)と春休み期間(2~3月)に実施。		
	ブラッシュアップ講座 現役で活躍中のプロのモデルが講師。ウォーキングを中心に美しく輝く立ち居振る舞い方法を実演指導。受講料無料		
	メイク講座 プロのビューティアドバイザーが講師。表情が明るく映えるナチュラルメイクの方法を実演指導。受講料無料		
	資格取得講座 就職に通じる資格取得講座を専門学校よりも安価で開講。その多くは「キャリアサポート奨励金」(8千円・1万円・3万円・5万円の4ランク)の給付対象		
	進路・就職支援		
進路・就職を考える	授業科目「キャリア形成戦略」 就職活動の考え方、方法論を徹底的に伝授 就職ガイダンス/女子学生就職セミナー/留学生ガイダンス 就職活動のプロセス、その時々やるべきことについて説明 就職情報サイト講習会 就職活動に欠かせないナビの利用講習会 就職活動スキルアップセミナー 就職活動本番前の1泊2日の合宿研修(定員100名) 就職能力試験(SPI3対策)・Webテスト…無料 九産大SPI選手権……………無料	個別面談 就職活動上のあらゆる相談や悩みに随時対応 履歴書・エントリーシート添削 書き方アドバイス、文章添削に随時対応 模擬面接 個人面接・グループ面接・グループディスカッションのコツを伝授 就活バックアップ講座 未内定原因をいっしょに考え、求人・企業説明会情報を提供	
	グループディスカッション・面接対策講座 講師による、グループディスカッション・面接の模擬体験		
	学内単独企業説明会/学内合同企業説明会/就職活動に対する旅費補助 本学学生の採用意欲が高い企業が学内に集結/関東、中部・近畿地区で開催される採用試験に対し旅費の補助を行う		
	(ビデオライブラリー)		
	社会人基礎力を高める	就職活動マナー講座 就職活動に最低限必要となるマナーについての講習会 社会人基礎力向上セミナー 一日経講座編一 日本経済新聞社の専任講師による、就職活動やビジネススキルとしても役立つ新聞の効果的な読み方講座、経済・時事講義	
		(面接室)	
			
		(パソコンコーナー)	

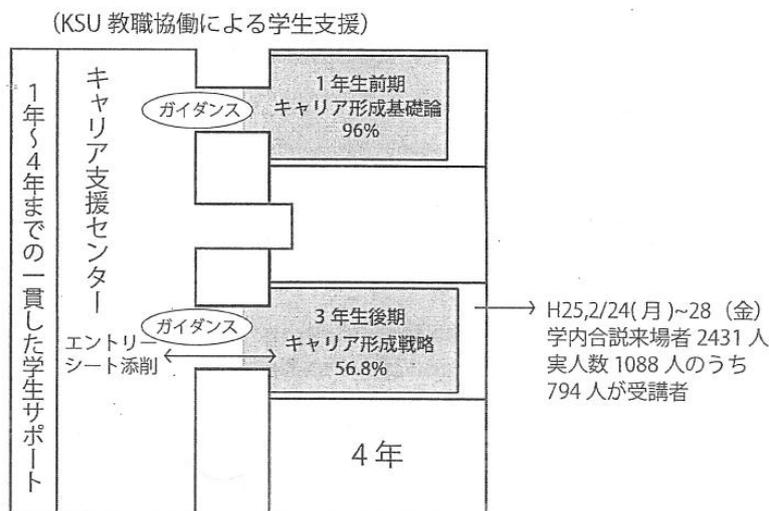
ーキャリア支援センターとの連携

- ・ キャリア支援センターの充実した設備とサポートも同大学のキャリア教育の特徴である。教職共同で学生支援に取り組んでいることが、高い履修率にもつながっている。
- ・ この3年間の成果として、キャリア支援センターとの連携強化を図り、エントリーシート・履歴書の添削、全員との面談実施、学生の自立を教員・職員の協働で実現してきた。
- ・ 施設としては、丸ごと1棟、キャリア教育のためだけの施設があり、40台のPCが置かれたパソコンコーナー、最新のAV機器が設置された面接室等を完備している。学部ごとに専任のスタッフを置き、キャリア形成や就職活動に関する相談に対応している。また、女子学生を対象に、就職活動に向けて現役モデルが立ち居振る舞いを指導する「ブラッシュアップ講座」や、プロのビューティアドバイザーがメイクアップを指導する「メイク講座」なども施設内で開催している。
- ・ キャリア支援センターには、キャリア教育課とキャリア進路支援課があり、キャリア教育課は、主に1、2年次生を対象に、単位修得の重要性や資格取得の指導を行うなど、キャリアを考えるための基礎づくりをサポートしている。一方、キャリア進路支援課は、主に3、4年次生を対象に、SPI対策や各種セミナーを開催し、企業が求める対人コミュニケーション力・積極性・協調性を養うなど、実践的な進路・就職サポートを行い、学生一人ひとりに応じた個別支援を行っている。

図表 キャリア支援センターによるサポート

サポート①	企業の仕事を実際に体験するインターンシップを春と夏の2回実施。1年生から参加できます。
サポート②	東京や大阪の企業に挑戦したいという学生のために、就職活動の旅費を大学が補助。
サポート③	4年生が自身の就職活動経験を分かりやすく3年生にアドバイスするジュニア・アドバイザー制度があります。

(出所) 九州産業大学『九産大の真実』



(出所) 九州産業大学提供資料

3. 特色あるキャリア教育プログラムについて

ここでは当該大学のキャリア教育プログラムのうち、キャリア形成科目（授業科目）の「キャリア形成基礎論」と「キャリア形成戦略」を取り上げて、その内容や取り組みの工夫について紹介する。

(1) キャリア形成科目（「キャリア形成基礎論」と「キャリア形成戦略」）について

①目的・位置づけ

- ・ 前述のとおり、同大学では、入学直後から将来を見据えたキャリア教育を実施しており、1年次からの段階的なキャリアデザインの構築を目指しており、1年次前期に「キャリア形成基礎論」、3年次後期に「キャリア形成戦略」を設置している。
- ・ 「キャリア形成基礎論」「キャリア形成戦略」からなるキャリア形成科目によって、基礎教育センター、学部教育、キャリア支援センターの3者によるキャリア教育の接合を図っている。

図表 キャリア形成科目による基礎教育センター・学部教育・キャリア支援センターの接合



(出所) 九州産業大学提供資料

②概要（構成）

- ・ キャリア形成科目は「キャリア形成基礎論」「キャリア形成戦略」の2科目からなっ

いる。

科目名	配当年次	時間数	単位数	クラス数	概要
キャリア形成基礎論	1年後期	15週	2	16	社会で生きていくための基本的なモノの見方、考え方、基礎知識
キャリア形成戦略	3年前期	15週	2	16	最大公約数の就職活動の知識を教える

※2014年度の場合

1) 科目の内容

- ・ 1年次前期の「キャリア形成基礎論」では、日本の社会構造や会社の体制がどう変化してきたか、それと大学での勉強がどう結びついていくのかを教え、それを通じて、社会で生きていくための基本的なモノの見方、考え方、基礎知識を身につけてもらうことを目指している。
- ・ 3年次後期の「キャリア形成戦略」においては、具体的・実践的な就活対策を講義し、機会損失の極小化を目指す。すなわち、世の中に就職活動ノウハウ本が溢れているが、最大公約数の就職活動の知識を教えなければ学生は混乱し、就職活動に失敗してしまうことから、3年次後期に講座を設置し、きちんと単位を出して、就職活動に向けた具体的な対策を行う。限られた時間の中で結果を出すための受験企業のリストアップ方法、エントリーシートの書き方、自己PRの仕方、集団面接やグループワークの対策などを徹底的に学ばせる。

2) 実施体制

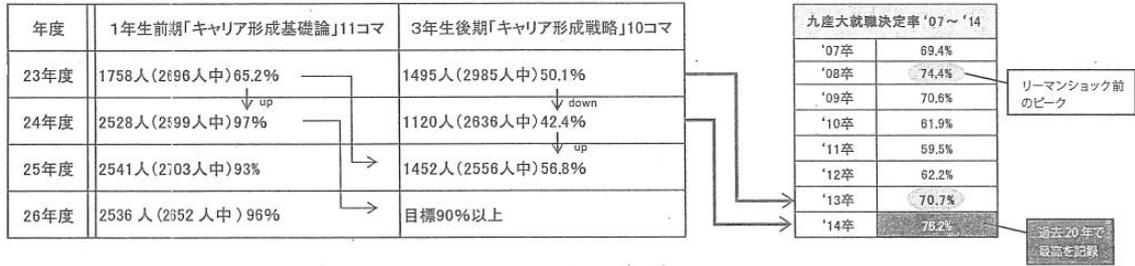
- ・ 「キャリア形成基礎論」「キャリア形成戦略」各16クラスについて、2人のキャリア教育専門教員が、統一シラバスで実施している。

3) 履修状況

- ・ 「キャリア形成基礎論」「キャリア形成戦略」は、いずれも卒業単位になる正課の授業科目であるとはいえ必修科目ではないが、履修率は高い。直近では、「キャリア形成基礎論」の履修率は、2014年度で96%（2652人中2536人が履修）、「キャリア形成戦略」は2013年度で履修率56.8%（2556人中1452人）である。

図表 平成23年度開講「キャリア形成基礎理論」「キャリア形成戦略」履修状況

平成 23 年度開講「キャリア形成基礎論」「キャリア形成戦略」履修状況



(出所) 九州産業大学提供資料

③授業の内容：「キャリア形成基礎論」

1) アウトライン・概要

名称	「キャリア形成基礎論」
開講学部	全学部
正課・非正課の別	正課 (全学部で・一部学部で) ・非正課
必修・選択の別	必修 ・ 選択
配当年次・学期	1年次・前期
時間数	15コマ
単位数	2単位
クラス数	16クラス (2014年度)
履修者数	2536名 (2014年度、受講率96%) ※昨年度は2541名 (受講率93%)
担当者・人数	専任教員 (実2名)
実施主体	教学・ キャリアセンター

2) 授業の内容や取り組みの詳細

- ・ 授業はスクール形式 (座学)。
- ・ 講義概要：「就職」の厳しさが報道されている。その背景には何があり、どのような対処が必要なのだろうか？また、「就職」はゴールではなく、スタートに過ぎず、その後の人生を力強く生きていく為には、どのような知識や考え方が必要になるのだろうか？この講義では世界と社会の変化の概要をとらえつつ、職業能力を念頭におきながらそれらに対処する能力や考え方の育成を図りたい。1年生の前期にそのカギがあると考えている。
- ・ 到達目標：学生生活の諸局面と仕事の中で求められる能力との関係が理解できること。社会に出てからの人生の諸局面において有用な物の見方・考え方が身に付くこと。
- ・ 成績評価方法は、出席状況を重視し、ミニッツレポート、試験を加えて評価する。
- ・ 全15回の授業の構成は以下の通り。

1	オリエンテーション (科目設置の背景、講義の進め方、評価方法、目的・狙い、アンケートシート配付など)
2	なぜ、就職活動に失敗するのか。「就職のための学生生活」「結果として成功する学生生活」との違い (就職活動失敗の諸局面、選考と学生生活の関係、エントリーシートにみる諸要素)
3	「我々はどのような時代を生活しているのか？」現代社会の位相と源流 パート① (20年前には無かったキャリア教育、それがなぜ生まれ、必要となるのか)
4	「我々はいまどのような時代を生活しているのか？」現代社会の位相と源流 パート② (今後の社会を予測する。人類で初の状況を前にして如何なる準備が必要なのか)
5	キャリア支援センターから (キャリア開発課からの告知と学生生活の過ごし方)
6	戦後の日本経済、世界政治の枠組みを俯瞰し、今後の潮流を考える。 (為替レート、物価推移、米ソ2大陣営の枠組み、冷戦の崩壊、グローバリズムの進展など)
7	レジュメによる前半の総集編

8. グローバル社会と IT 化の実例 (NHK の番組から) 前編 (キャリアショック、問われる仕事、会社の仕事の変貌)
9. SPI2 模擬試験 (代表的な入社試験である SPI 2 試験を体験してもらい、基礎学力の重要性を認識する)
10. グローバル社会と IT 化の実例 (NHK の番組から) 後編 (要素価格均等化、コスト意識、仕事の付加価値化、合成の誤謬)
11. エートスの変容と時代認識 (プリントに基づき時代背景の変遷と仕事に求められる能力、および学生生活との関連を理解する)
12. 業界・職種と企業、仕事と大学での勉強との関連
13. 社会人基礎力の概念説明とライフラインチャート (アンケートシート返却と記入、プリントによる解説)
14. 教養とは何か？ (キャリア形成における教養の重要性を解説する)
15. 試験と講義の総括 (試験を実施するとともに、講義ポイントの再解説と今後の学生生活の過ごし方を解説、あわせて参考文献と処理ストを配付する。)

3) 産業・職業の理解を高める上での工夫点

- ・ 「やりたいこと探し」「～になるには」などの自分探し・自己分析主体のキャリア教育から、「現状」「原因」「今後の予測」に基づいた「生きていく戦略」を中心に講義するとともに、専門分野の学びとビジネス思考との通有性を解説する。
- ・ エデュケーション (教育) の語源は「引っ張り出す」。知識を与えて教えるだけではなく、触媒の役割が大事であるが、今の子どもたちに合わせてどのようにやるかが課題。
- ・ 講義では「地図」「天気」「コンパス」という3つの概念を用いて説明する。学問とは世界について書かれた地図であり、空白を埋めるのが研究者で、学生は地図の読み方を専門の教育を通じて学ぶ。「天気」は個人の力ではどうしようもないこと。高齢化など人口構成を見れば、将来をある程度予測できる。人は「地図」「天気」の読み方を身につけていないと山で遭難する。そして「コンパス」は教養である。
- ・ 授業では、たとえば、学生に、朝起きてから今までにどういうことをやったか振り返らせ、問題なく一日を過ごせる背景には、人が仕事を通じて生活をサポートしているからということに思い至らせる。それにより、仕事と自分にはこんな関係があるのかと気づく学生もいる。そして、仕事の根幹に据えているのはサポートという概念であること、コーポレーションやカンパニーの語源について考えさせたりもする。
- ・ 本学の卒業生が就職する可能性が一番高い仕事は、営業や販売。なぜコミュニケーション能力を企業が求めるのか、営業におけるコミュニケーション能力とはどのようなものであるか (自分の話をするのではなく、お客様の顕在的・潜在的なニーズを察知し、提案することが仕事である等)、といった話をする。
- ・ 講義形式はスクール形式。3年次の「キャリア戦略論」ではグループワークやディスカッション形式を取り入れているが、まずは基本的な力をつけるため座学としている。

4) 授業に取り入れているツール

○既存のもの

- ・ SPI2（代表的な入社試験）
- ・ クレペリンは導入していない。
- ・ 性格適性検査は導入していない（学生の思い込み・刷り込みになりがちのため）

○独自開発のもの

- ・ 統計データを多用したオリジナルのレジюмеを作成し、使用している。

④授業の内容：「キャリア形成戦略」

1) アウトライン・概要

名称	「キャリア形成戦略」
開講学部	全学部
正課・非正課の別	正課（全学部で・一部学部で） ・ 非正課
必修・選択の別	必修 ・ 選択
配当年次・学期	3年次・後期
時間数	15コマ
単位数	2単位
クラス数	16クラス（2014年度）
履修者数	1452名（2013年度、受講率56.8%、2年前に「キャリア形成基礎論」を受講した学生数に対し82.6%） ※前年度は1120名（受講率42.4%）
担当者・人数	専任教員（実2名）
実施主体	教学・キャリアセンター

2) 授業の内容や取り組みの詳細

- ・ 講義概要：就職活動を成功させるためにはセオリーが存在する。各種の選考とその対処、活動スケジュールと無駄のない動き、これらを理解せずに自己流で失敗する学生が後を絶たない。この講義では就活の諸局面で必要となる知識はもちろんのこと、エントリーシートや面接、グループディスカッションの実践などを通じて、無駄なく無理なく就活に臨める態勢を身につけることを目標とする。あわせて職業観、社会観も提示し、その後の社会人生活に必須の考え方も体得してもらいたいと考えている。
- ・ 具体的・実践的な就活対策を講義。機会損失の極小化を目指している。
- ・ この3年間の取組の成果として、日本最大規模を誇る本学キャリア支援センターとの連携強化を図り、エントリーシート・履歴書の添削、全員との面談実施、学生の自立を教員・職員共同で実現してきた。
- ・ 到達目標：就職活動に必要な知識、能力が身につくとともに効率的で効果的な就職活動

が可能になること。

- ・ キャリア支援センター主催行事に出席すること、12月よりスーツ着用を義務づけ。
- ・ 成績評価は、出席状況を重視し、ミニッツレポート、ワークシートを加えて評価する。
- ・ 全15回の授業の構成は以下の通り。

1	最大のチャンスとしての「新卒」就職活動 (新卒求人倍率、若年失業率の他国との比較、国内年代別失業率との関連などから「新卒」就活の優位性を認識する) ※社会人のキャリア形成の観点から、冒頭の40分を利用して薬物使用防止の講話をいただく。 (福岡県警薬物・銃器対策課、演題「学生の薬物被害ディフェンス策」)
2	アンケートシートの記入、就職試験の種類と構造、今後のスケジュールについて
3	社会変動と企業の求める人材要件の変化について①(人材の3層化、フリーター問題) (企業は面接を通じて何を見極めようとしているのか)
4	社会変動と企業の求める人材要件の変化について② (企業環境と望ましい人物像)
5	エントリーシート作成と自己分析① (エントリーシートの狙い、学生生活諸局面と望ましい人物像との関連を考える)
6	エントリーシート作成と自己分析② (自己PR・志望動機、他大学生との差別化)
7	業界の現状と今後の展望 (代表的な業界の現状と今後の展望を理解し、興味関心のある業界を研究する)
8	面接試験の種類と構造(選考段階における狙いと対策) (個人面接、集団面接、グループワーク、グループディスカッション、1次～3次選考)
9	キャリア支援センターから
10	職業観と人生観 (働くという事、組織への貢献と自己実現)
11	グループワーク① (ワークシートを利用した相互批評) ※12月よりスーツを着用する。
12	グループワーク② (インタビュー、マナー、話法、受け答えを中心に簡易的な模擬面接を行う)
13	社会人基礎力の概念説明とライフラインチャート (アンケートシート返却と記入、プリントによる解説)
14	グループディスカッション② (役割と発言、要約・コメント・段取りについて)
15	試験と今後のスケジュールについての解説を行う

3) 産業・職業の理解を高める上での工夫点

- ・ 就職対策に特化。就職活動で実際に直面するようなこと(エントリーシートの記入、インタビュー等)を模擬的に体験させている。ただし、そのことと併せて、職業観、社会観も提示し、その後の社会人生活に必須の考え方を体得させようとしている。
- ・ 選考方法を通じて、なぜ企業がそのような能力等を求められるのかを考える。
- ・ 「業界の現状と今後の展望」として、代表的な業界の現状と今後の展望を理解し、興味関心のある業界を研究する授業を設けている。
- ・ スクール形式(座学)を基本とする1年次の「キャリア形成基礎論」と違い、グループワークやディスカッションを授業に取り入れている。

4) 授業に取り入れているツール

○既存のもの

- ・ エントリーシート

○独自開発のもの

- ・ 特になし

4. 課題・今後の方針

- ・ 1年次に「キャリア形成基礎論」を履修した学生の90%が本講義を履修することを目標としている。100%としないのは、家業を継いだり、結婚したりすることが予め分かっている学生や、本国に帰る留学生などがあるためである。

5. その他

(1) 保護者対象無料講演の実施

- ・ 保護者の考えや発言が、学生の就職活動や就職先の選択に大きな影響を与えることから、様々なテーマで保護者向け講演を実施している。

保護者対象無料講演のお知らせ	
実施テーマ	先行き不透明時代における大学進学の意味
	大学か専門学校か？18才の選択は正しいか
	子供が親の所得を越えられない時代の到来
	親が語るべき教育の核心とは
	教育の意味を再考する。職業と公私の関係

(出所) 九州産業大学提供資料

